

施策案に対する意見等の概要と意見等に対する市の考え方

番号	意見等の要旨	意見に対する市の考え方
1	<p>落雷は年間数十億回発生し、人命被害、火災、送配電網の停止、通信障害、データ消失など社会基盤に深刻な影響を及ぼすことが確認されています。</p> <p>現在の落雷の対策についての多くは、電気のない時代に発明された避雷針であり、建造物を守るための雷を集めて落とす仕組みが避雷針です。電気が普及した今、なるべく落とさないことが雷対策といえます。</p> <p>近年は気象変動で雷活動が増え、従来の避雷針による電流誘導では設備の内部保護が十分でないという課題が顕在化しています。</p> <p>従来型は先端からお迎え放電を発生し雷を呼び込む仕組みで、落雷を避けつつ建物を守る考えでしたが、内部の電気・電子機器に誘導電流が流れ被害が残ります。</p> <p>一方、PDCE(落雷抑制型避雷針)は雷の発生・接近自体を抑制する技術で、「お迎え放電」を抑え落雷を起こしにくくします。これにより直撃雷による破壊、誘導電流による電子機器の誤動作や損傷リスクを低減できます。</p> <p>電源不要で建築基準法に適合し、すでに多数のインフラや公共施設に導入実績があり、現代社会の情報化・電子化に対応した落雷制御システムとしての必要性が高まっています。</p> <p>この度は太田市の落雷対策として、PDCE(落雷抑制型避雷針)の設置をご提案いたします。</p> <p>よろしく申し上げます。</p>	<p>近年、ゲリラ豪雨や気象変動に伴う大規模な落雷被害は、電力エネルギーの供給停止に陥る非常に重要な課題であると認識しています。</p> <p>特に精密機械や通信インフラが生命線の現代社会において、「雷を呼び込む」のではなく「落とさない」という対策は理にかなった方法であると感じます。</p> <p>災害が発生しても地域社会への被害が致命的なものにならず、迅速に回復する「強さ」と「しなやかさ」を備えた「真に災害に強いまち」の実現を目指して、ご提案のPDCE(落雷抑制型避雷針)の設置も含め、様々な災害対策について検討していきます。</p>
2	<p>令和元年東日本台風で市内で浸水被害が発生した。先日上毛新聞一面で太田断層、大久保断層があり地震も含め防災・減災対策が急務であるが、まだまだ深刻さが身近に感じてない人が多いのではないかと。意識改革のPRがまず必要で地域でいざという時の訓練をやる必要があるがなかなか実行できていない状況だと思います。群馬県は災害が少ない事は良い事ですが、その意識が落とし穴になり、取りかえしのつかない事態になりかねない。真剣に命を守る訓練が必要かと思われまます。意識を変えることを地域で真剣に考えて実行すべき。</p>	<p>太田市国土強靱化地域計画の改定にあたり、近年の地震や風水被害などをふまえ、市街地浸水や土砂災害、感染症の大規模発生といったリスクシナリオ(起きてはならない最悪の事態)を25項目設定し、必要な対応方策(推進方針)をまとめました。</p> <p>また、各施策に係る個別事業や各施策のKPI(重要業績指標)を設定したアクションプランを策定し、各事業の進捗を管理しながら、ハード対策、ソフト対策について効果的に施策を推進していきます。</p>